『コラボノート』で楽しい協働学習

北海道石狩市立紅南小学校（「フューチャースクール推進事業」研究指定校）の取り組み

子ども同士がお互いに教え合い、学び合う『協働学習』と学校の枠を超えた『交流学習』が実現するソフトウェア＝『コラボノート』。平成22年度からの総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の研究指定校33校でも採用され、教育効果に関する検証が進められているがそのうちの1校の石狩市立紅南小学校（根本壽夫校長・生徒数435人）は、全校で『コラボノート』を積極的に授業に活用している。

新聞づくり、学級文集、ディベートも

「学習指導要領に示されている『言語に関する能力の育成』をはかり、コミュニケーション能力の系統的な育成を目指しています。つまり、文章を書く力、説明する力、相手に伝える力を伸ばそうと考え、6時間の授業を設定しチャレンジました」と前多教諭。今回はそのうちの3時間目と4時間目だと説明。「ただ2年生ということもあって今の段階では、子どもたちの力だけで新聞を作り上げるのは難しいとは思いますが、何度も繰り返していくことで、狙った力を確実に伸ばしてくれると期待しています」と続ける。

子どもたちは4人1組で班を構成。それぞれが「パソコンしんぶん」「思い出しんぶん」「お知らせしんぶん」といった思い思いのテーマを決め、誰がどこに何を書くかを話し合い、分担し合って作業を進めてきた。題材は授業の2日前に行われた運動会。頑張ったこと、心に残ったことを書いていく。

使用しているソフトは『コラボノート for School』。同校が平成22年度に総務省の「フューチャースクール推進事業」の研究指定を受けた際に導入されたもの。今回の授業以外にもこれまで各学年の担当の部分の記事を入力し、見出しをつけ、必要な写真やイラストを指定すると自動的にレイアウトされます。この一連の過程を通して文章を書く力、説明する力、相手にわかりやすく伝える力が養われます」と前多教諭。また作成する過程で子どもたちは何度も話し合い、ぶつかり合いながらもお互いに納得し、助け合って進めていくこともあって、コミュニケーション能力が養われるだけでなく「相手を思いやるやさしさの気持ちも培われていくのを感じます」という。

タブレットPCを1人1台使用

コミュニケーション能力や心のやさしさ育成

さらには「旧来の手書きの壁新聞は、労力をかけた割には見た目が悪くなりがちです。でも『コラボノート』を活用するととても「当時は石狩市立浜益小学校でしたが『コラボノート』を使って、お互いの地域を紹介し合いました」と新谷教諭。「日常的に子どもたちは、親や兄弟、教師、クラスメートなど顔見知りの人間とやり取りするのが普通です。この時にはわざわざ言葉を精選しなくても、通じ合います。しかし顔見知りでない場合はそうはいきません。相手を意識し、適切かつ的確な言葉を選ぶ必要があります。この『コラボノート』を使うと子どもたちは言葉や文章を常に意識するようになります。その意味では、人間として成長していく上で不可欠な、言葉を使って相手ときちんと意志疎通を図ることの出来る真のコミュニケーション力を培う側面も持っています」と続ける。

「学びのイノベーション事業」（文部科学省）の実証研究指定校も受けている同校。「コラボノート」が導入されたタブレットPCを全生徒に1台ずつにあたる約450台が配備されまた電子黒板などの設備も充実している。ハードを使いこなす技量や機器のメンテナンスなど、教師にとっては新しく取り組まなくてはならないことも多い。

同校では、「子どもたちの成長に少しでも寄与できるなら…。お互いに協力し合きたい」とICT機器の効果的な活用に前向きだ。

教諭や支援員に指導を受けならグループで協働学習

話し合い、納得し、譲りながら成長も

例えば前多教諭の場合は昨年受け持った4年生のクラスで新聞づくりをはじめ、自己紹介、学級文集、ディベートなどで活用した。

「新聞づくりでは自分の担当の部分の記事を入力し、見出しをつけ、必要な写真やイラストを指定すると自動的にレイアウトされます。この一連の過程を通して文章を書く力、説明する力、相手にわかりやすく伝える力が養われます」と前多教諭。また作成する過程で子どもたちは何度も話し合い、ぶつかり合いながらもお互いに納得し、助け合って進めていくこともあって、コミュニケーション能力が養われるだけでなく「相手を思いやるやさしさの気持ちも培われていくのを感じます」という。

さらには「旧来の手書きの壁新聞は、労力をかけた割には見た目が悪くなりがちです。でも『コラボノート』を活用するととても「当時は石狩市立浜益小学校でしたが『コラボノート』を使って、お互いの地域を紹介し合いました」と新谷教諭。「日常的に子どもたちは、親や兄弟、教師、クラスメートなど顔見知りの人間とやり取りするのが普通です。この時にはわざわざ言葉を精選しなくても、通じ合います。しかし顔見知りでない場合はそうはいきません。相手を意識し、適切かつ的確な言葉を選ぶ必要があります。この『コラボノート』を使うと子どもたちは言葉や文章を常に意識するようになります。その意味では、人間として成長していく上で不可欠な、言葉を使って相手ときちんと意志疎通を図ることの出来る真のコミュニケーション力を培う側面も持っています」と続ける。

「学びのイノベーション事業」（文部科学省）の実証研究指定校も受けている同校。「コラボノート」が導入されたタブレットPCを全生徒に1台ずつにあたる約450台が配備されまた電子黒板などの設備も充実している。ハードを使いこなす技量や機器のメンテナンスなど、教師にとっては新しく取り組まなくてはならないことも多い。

同校では、「子どもたちの成長に少しでも寄与できるなら…。お互いに協力し合きたい」とICT機器の効果的な活用に前向きだ。

TV会議を補い充実させる効果も期待

一方で交流学習にも力を入れた。「一昨年には沖縄県、昨年は和歌山県の小学校とインターネット回線を使って交流授業を行いました。使い方としてはTV会議の補足用でしたが、とても効果があったと思います」（前多教諭）。TV会議は時間も短く、全員が発言できるわけではない。多くの場合は、いえなかったことや言い足りないことを抱えたまま終了することが多い。「そこで『コラボノート』を併用し追加の質問やお互いの感想を送ったり、TV会議の内容を補い充実させるツールとして活用しましたが、とても効果的でした」

真のコミュニケーション力育成に貢献も

一昨年には、今年の4月の異動で同校に赴任した、新谷浩一教諭の前任校とも交流学習を実践した。使うと子どもたちは言葉や文章を常に意識するよれ、また電子黒板などの設って全力で取り組んでい品としては保護者からの評判もいいようです」と視覚面からも評価する。

新谷浩一教諭（左）と前多香織教諭（右）

『コラボノートfor School』で「協働学習」+「交流学習」

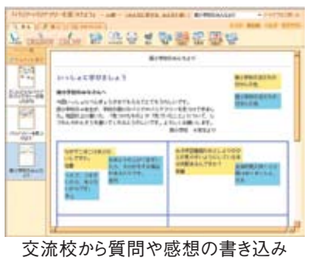
「私たちは、よりよいコラボレーションの創造を通じて、社会に貢献していきたい」。㈱ジェイアール四国コミュニケーションウェアが、このような熱い想いを込めて開発した、新たな概念のコラボレーションツール『コラボノートfor School』。調べ学習や単元のまとめ、交流学習などの『協働学習』を通して活用型学力や探求型学力を育成するソフトだ。子どもたち自身が、自由に活き活きと使いこなすことができ、あっという間にみんなの意見をまとめられる、グループ学習のベストセラーソフトとして教育現場で注目を集めている。

グループのみんなで協力しあって新聞づくり

2010年～2011年には 総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の研究指定校33 校で採用され検証が進められている。

授業の幅と質が広がり深まる多彩な機能

まずはテキストや画像、添付ファイル、フリーペンなどを使ってリアルタイムに情報共有ができること。また1つのノートに最大50枚の複数ページを作ることが可能なので、まとめも整理も簡単。さらには複数人が画面内をフリーレイアウトできるなど、同時共同編集もできるのも大きな特徴だ。その他にも▶日本語全文検索機能▶データや用途に合わせてHTML形式やWord2007、パワーポイント2007形式への保存が可能▶入力された情報が随時コラボノートサーバーに蓄積されるので、文書管理も容易▶今まで使っていたものをスキャナーで読み取ったり、データを画像にして背景に取り込むなどのテンプレートが簡単にできるといった機能も併せ持つ。


交流校から質問や感想の書き込み

例えば、修学旅行で学習した内容を新聞のテンプレートを利用してまとめ、各班で協力し合って内容を検討したり、他の班が制作中の新聞を見ながら、見出しや写真、記事などを工夫して再構成することもできる。「ちょうど従来のなじみ深い模造紙を使った活動に、コンピュータならではの機能をプラスしたもの。小学生でも簡単に操作ができ、他の人たちの意見や活動がすぐわかるので、楽しみながら活き活きと『協働学習』ができます」と同社。さらには「インターネットにも対応しているので、地域の学校間や遠隔地の学校間でお互いに意見を出し合ったり、共同して作品を作ったり……。学校の枠を超えた『交流学習』も可能になります」。授業の幅が広がり、質も深まると強調する。

『コラボノート』は、強力な協働学習ツール

中川 一史・放送大学 ICT活用／遠隔教育センター 教授

中川 一史 教授

ICTを活用した協働学習をどのように進めるか、ということをよく耳にするようになった。2011年4月に公表された文部科学省の教育の情報化ビジョンでも、「発表・討論」「意見の分類・整理」「他校や専門家との交流」などを例に協働学習が示されている。

そのような中、『コラボノート』は強力な協働学習ツールであると考える。

『コラボノート』には、特筆すべき3つのポイントがある。

①ネットコラボレーションの敷居が低くなった

『コラボノート』は、ブラウザ経由の共同編集が可能だ。教師も子どもたちもブラウザをたちあげるだけで使うことができる。遠く離れた地域の子どもたちや専門家とのコラボレーションも可能。

②画面はシンプル

外部との交流にも使えるが、共同制作活動などにおいて、クラス内での共同作業もできる。

スタートの画面は、真っ白いキャンパス。ネット上でどのようにコミュニケーションをとっていくのか、どのようにレイアウトするのか、学習活動において、工夫する仕組みになっている。また、他のWebとリンクもできるので、自分の考えの根拠を述べるためにつなぐ、というような使い方もできる。

③履歴を残せる

これまでに作成した作品やレポートを集めてデジタルポートフォリオを作成できる。自分の学習のプロセスを振り返ることができるだけでなく、ネット上での相互評価も可能。最終的にプリントアウトしてレポート集などの形にすることもできる。

また、より一層手間の軽減をはかることのできる「コラボノート交流学習用サーバ」が開発された。Webアプリケーションなので交流相手がソフトウェアをインストールする必要がない。使用期間等の制限はあるようだが、交流学習が目的なら使用料は無料とのことなので、ぜひ活用してみてはいかがだろうか。

校務の情報化に確かな手応え

『コラボノート for Public』の活用

岡山県玉野市教育委員会

岡山県玉野市教育委員会では、市内の小中21校との“情報共有ツール”として平成22年3月から『コラボノートfor Public』を導入した。当初は教育委員会から「学校への情報発信用ソフト」として活用されていたが、徐々に活用事例が増え、1年後には各校の養護教諭や事務職員間、さらには管理職教員間で“横”の情報共有の活性化が始まった。

カレンダー上にそれぞれの予定を書き込み日程調整

教育委員会と学校の間では、頻繁な情報のやり取りが行われるが、例えば書類に関しては、それぞれ用途によって使い分けているものの、最終的には、電子メールの添付ファイルでデータ化している。しかし多くの学校が基本様式の、ファイル名を変更していないので、名前の変更処理に手間がかかるという。

ところが『コラボノート』は未確認、作業中、提出済みといった学校の状況もわかり、添付ファイルも一括ダウンロードできるという機能が実装されているので「2011年度からの報告書は、『コラボノート』を使うことがはるかに多くなりました。」という。

さらには、今年の2月からは、学校図書館司書も『コラボノート』を使い始め、自校にない図書を他の学校の司書に尋ねる横断検索も始まった。教育委員会はもとより養護教諭、学校事務、管理職へと広がり始めた『コラボノート』活用の輪。玉野市ではそれが学校図書館にも拡大。玉野市教育委員会では校務の情報化推進への確かな手応えを感じている。

『コラボノート for Teacher』

教職員の負担軽減を!

教員の多忙の原因とされる教務以外のさまざまな諸作業。学校経営向けの『コラボノート for Teacher』はそうした教職員の負担を減らすためのソフトとして、多くの学校が導入し始めている。基本的なソフトの形態は、その他の『コラボノート』と同じで、「職員会議資料」「行事の反省」「連絡掲示板」「提出物管理」など教員間の連絡や相談事が、わざわざ会議の場を持たなくても共有できるのが特徴だ。これによって、打ち合わせ時間の削減やペーパーレス化も実現。そうした経費節減に加え、もっとも効果を感じることとして「子どもたちとの触れ合いの時間も増やすことができる」と活用校では喜ばれている。

コラボノートで交流学習

ジェイアール四国コミュニケーションウェアが
交流学習・協働学習をサポートします!

コラボノートの交流サーバーを使ってこんなこと…

- インターネット等を活用して、地域の人々や全国の学校の子どもたち、さらには社会教育施設、研究機関等の専門家等との交流がはかれます。
- 地域の大人へのインタビューや植物の観察、情報端末での撮影等により、必要な情報を収集するとともに、気づいたことを記録します。
- コラボノートへの書き込みを電子黒板等で一斉に共有し、発表・討議を行います。
- 自己の意見や他者の意見について、観点ごとに分類・整理する場合に有効です。

コラボノート導入校は
すぐにご利用いただけます。
採用ご検討中の学校様も
ご相談ください。

学校間交流希望校募集!
担当者にお問い合わせください。

第一回 応募作品公開中! 協働実践コンテスト 検索
「協働」実践コンテスト

『コラボノート』を実際に体験!
東京コラボレーションルーム開設
JR「品川」駅高輪口徒歩10分・都営地下鉄「泉岳寺」駅徒歩1分
お問い合わせ：電話03・3473・1210

【お問い合わせ】株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア コラボノート交流学習担当
フリーコール：0120-999-687（固定電話専用） TEL：087-821-4520
ホームページ：http://www.collabonote.com/edu/
※コラボノートは株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェアの登録商標です。